

渡島の交通

道路

管内の市町は、函館市から放射状に伸びる道路と海岸線を結ぶ道路で結ばれています。

住民生活の安定や地域産業の振興を図る上で道路は重要な役割を果たしていますが、道南と道央を結ぶ幹線道路は、国道5号のみであり、自然災害などによる交通遮断は地域に大きな影響を及ぼすことから、防災対策を含め、道路網の整備が課題となっています。

このようなことから、北海道縦貫自動車道、函館・江差自動車道、高規格道路等の早期整備が望まれています。

● 渡島総合振興局の道路整備状況 (R5. 3. 31現在)

	路線数	実延長	改良率	舗装率
一般国道	9	508.9	100.0%	100.0%
道道	59	448.6	84.3%	87.5%
市町村道	8,663	3,692.8	65.6%	65.4%
合計	8,731	4,650.3	83.4%	84.3%

道路現況調査(北海道)

● 管内主要道路状況図

北海道縦貫自動車道

北海道縦貫自動車道は、北海道を南北に貫いて、道北・道央地域の連絡の充実と、道央・道南地域の連絡の強化を図り、沿道地域の産業・経済・文化の発展に大きく貢献するものとして期待されています。

管内では、七飯IC(仮称)を起点として大沼国定公園を擁する七飯町から噴火湾沿いに国道5号と並走しています。

高規格道路

高規格道路として、函館新外環状道路(赤川IC～函館空港IC間)は、令和3年3月28日に供用開始となりました。

また、函館新外環状道路(函館空港IC～函館市古川間)、松前半島道路(木古内町～松前町間)が計画されています。

函館・江差自動車道

函館・江差自動車道は、北海道縦貫自動車道、函館新道等と一体となって、高速交通ネットワークを形成する一般国道の自動車専用道路として、北斗茂辺地IC～木古内IC間は、令和4年3月26日に供用開始となりました。

近隣主要都市を連絡する道路として、地域の交通混雑の解消、地域経済の活性化等に貢献し、防災代替路としても有効に機能します。



函館新道

函館新道は、函館市昭和から七飯町西大沼までの全長20.2kmの道路で、交通量の多い国道5号のバイパスとして渋滞の緩和や騒音の改善及び赤松並木の保護を目的としており、北海道縦貫自動車道や函館・江差自動車道等と一体となって、高速交通ネットワークを形成しています。



北海道縦貫自動車道 大沼公園IC



「函館・江差自動車道」と「函館新道」をつなぐ函館IC